

国債に関する海外説明会（ I R ）

○ 目的

日本経済、財政構造改革、国債管理政策（国債発行計画、税制改正等）の現状や今後の展望などについて、海外投資家に対し直接説明を行うことにより、これらの正確な理解を促すとともに、日本国債に対する信認を維持・向上させることで、海外投資家による日本国債保有の促進への一助とする。

○ 開催場所・日時

市場参加者の国際性や取引の規模、日本国債を保有する大口投資家の存在に鑑み、ロンドン及びニューヨークで開催。

ロンドン

- ・ 日時：1月18日（火）14時～17時
- ・ 場所：Plasterers Hall（ロンドン・シティ）

ニューヨーク

- ・ 日時：1月20日（木）14時～17時
- ・ 場所：Japan Society（ニューヨーク・ミッドタウン）

（注）いずれも予定時間を30分程度超過。

○ 参加者

大口投資家、市場関係者、グローバルカストディアン、エコノミスト等。ロンドンは約140人、ニューヨークは約170人。

○ 説明会の概要

財務省出席者から日本経済の現状、財政構造改革の動向、国債管理政策等について説明を行うとともに、これらをテーマにパネルディスカッションを実施。

主な質問等は次の通り。

- ・ 財政再建、増税等の政策と景気との関係について
 - 現下の日本経済は、増税や財政構造改革に耐えられるような状況にあるのか。
 - 税収を増加させるために、今後、具体的に何ができるのか（規模、スケジュール等）。
- ・ 財政構造改革の具体的方法、道筋、実現可能性について
 - 「構造改革と経済財政の中期展望」（内閣府）の資料でも悲観的なシナリオ（非改革・停滞ケース）が示されていたが、財政再建は本当に可能なのか。
- ・ 日本国債の保有構造の多様化について
 - 海外投資家の日本国債保有比率について具体的目標はあるのか。
 - 海外投資家の増加は、市場の安定をもたらすのか。
- ・ 日本国債の格付に対する見解について
 - 海外格付機関の日本国債に対する格付は低いが、どのように受け止めているのか。
 - 財政規律の向上は、日本国債の格付にどのような影響があるのか。
- ・ 日本国債に係る非課税手続の簡素化等の税制改正について
 - 非課税手続の簡素化、物価連動債の譲渡制限緩和等の税制改正はいつから実施されるのか。
- ・ 郵政民営化の問題について
 - 郵政民営化後の郵便貯金や簡易保険の資金運用は、どの程度自由度を持ち得るのか。
 - 郵政民営化は、国債市場にどのような影響があるのか。

○ その他

説明会への参加者の募集等については、日本国債に係る取引のノウハウや開催地におけるプレゼンス等を有する国債市場特別参加者の協力を得て実施。

国債に係る海外説明会（第２回）の開催について

- 国債に係る海外説明会（IR）については、１月下旬、ロンドン及びニューヨークで開催したところであるが、その際の市場関係者、投資家等からの反応等も踏まえ、同様の説明会をアジア地域において５月後半を目途に開催することとする。
- 説明会は、投資家の集積や交通の便も考慮し、開催（シンガポール等が候補）。
- 説明内容は、第１回（ロンドン、ニューヨーク）と基本的に同様とし、財務省出席者から、日本経済の現状、財政構造改革、国債管理政策等について説明を行うとともに、これらをテーマに、パネルディスカッションを行う。
- 必要に応じて、国債市場特別参加者等の協力を求める。